

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57-182537

⑤ Int. Cl.³
B 60 P 7/02

識別記号

序内整理番号
7214-3D

④③公開 昭和57年(1982)11月10日

発明の数 1
審査請求 有

(全 5 頁)

⑤ トラックの後部覆付幌の折たたみ開閉自動駆動装置

⑦2 発明者 稲葉良貞

大阪市天王寺区細工谷町55

②特 願 昭56-66584

②出願人 株式会社准精金属製作所

◎出願 昭56(1981)4月30日

◎田嶺人株式会社 進精金屬製作所
東大阪市高井田北通4丁目15

男 種 實

1. 発明の名称

トラックの後部覆付機の折たたみ開閉自動 駆動装置

2. 特許請求の範囲

- 荷台の囲い(1)に沿つて前後移動する様にした移動基板(7)に、幌(4)後部の覆(5)の最後端の骨(6)を固定した回転円盤(8)を接着し、この円盤(8)の回動により前記最後端の骨(6)が回動する様にしたことを特徴とするトランクの後部覆付幌の折りたたみ構造自動駆動装置。

3. 発明の詳細を説明

この発明は、トラックの後部積付幌の折たたみ開閉自動駆動装置に関するものである。トラックの貨物の大半は雨ぬれを兼じられているが、アルミケース覆や固定式覆の場合、荷役は依然として人力に頼らねばならず、トラックの大進化によつて一台の荷役（積降し作業）は走行の努力よりも大である。又、固定式の覆でない場合は、積荷覆を被せるのに一時間以上もかかり、しかもその

作業自体が重労働で運転者の体のたねとなつてゐる。

そこでこの発明は、荷役の前後に運転席での操作で幌の伸張、折りたたみのみならず、幌後端の覆までも自動的に開閉でき、しかも折たたんだ幌及び後部の覆は荷台の前端に嵩低く納めることができ、クレーンキャリフトラックの荷役に支障がなく、その上運送事業の省力化に多大の貢献をし、うる極めて便利なトラックの後部覆付幌の折たたみ開閉自動駆動装置を提供することを目的とするものである。

以下、実施例として示した図面に従つて、この発明の構成を説明する。

先ず、第1図及び第3図に見る様に、トラックの荷台の囲いの内側に適宜間隔を置いて複数のレール取付柱(12)を立設し、荷台の全长にわたつて柱(12)の外側にレール(13)を取付けている。又車の型式によつては取付柱をなくしボディに直付する事がある。そして機(11)の各骨(14)は下部に一对の車輪(15)(16)を装着し、この車輪(15)を介して前後移動可能

として前記レール(3)に支持されている。また、幌(4)の最後端の骨(5)は、四角形とした移動基板(7)にその下部を固定して支持され、この基板(7)は四角の車輪(8)を介して前記レール(3)を前後に移動しうる様になつてゐる。この基板(7)は、外側に回転円盤(9)を装着し、この円盤(9)はその一部分にピニオン凹を設け、このピニオン凹は、レール(3)の後部適宜位置に固定されたラック(10)とかみ合ひの状態になつてゐる。尚、前記基板(7)は、その上部において幌(4)後部の覆(11)の骨(5)を回動可能に支持し、また、前記円盤(9)は最後端の骨(5)を固定している。

そして、前記レール(3)の前後端に鎖骨車(12)を固定して鎖骨を環状させ、この鎖骨は一箇所において前記基板(7)の裏面に固定されている。従つて鎖骨は、基板(7)とレール(3)間に位置している。また、幌(4)の最後端の骨(5)と後部の覆(11)の最後端の骨(5)にスプリング(13)の端部が取付けられている。尚、前記鎖骨を駆動するためのモーター(図示せず)が運転席の後方適宜位置に設置されている。

次に、上述の如き構造としたこの発明の作動状

態を説明する。

先ず、第1図の様に幌(4)及び覆(11)を被せた状態から幌(4)及び覆(11)を折りたたむためには、移動基板(7)が前方に移動する様に鎖骨を作動させる。すると基板が第5図に見る様にラック(10)とかみ合ひ、回転円盤(9)が前方に回動し、従つて最後端の骨(5)が回動して立ち上がる。そして基板(7)は更に前進させられて最後端の骨(5)が垂直に立ち、ピニオン凹がラック(10)から離れ、第4図の状態で基板(7)が前進し続ける。このとき、幌(4)の最後端の骨(5)に押されて幌(4)が餘々に折りたたまれ、各骨(5)が順次前方に押されて移動し、遂には、第2図の状態になつて幌(4)及び覆(11)の折りたたみが完了する。尚、垂直に立ち上がつた最後端の骨(5)は、スプリング(13)により引張られているため後方に倒れることを阻止されている。

逆に、幌(4)及び覆(11)を被せるためには、第2図の状態から鎖骨を反転させて移動基板(7)を後方に移動させる。すると骨(5)が順次後方に移動し、幌(4)が餘々に延ばされる。そして、基板(7)がラック

(10)の位置まで来るとピニオン凹がラック(10)とかみ合つて回転円盤(9)が後方に回動し、覆(11)の最後端の骨(5)がスプリング(13)の引張力に抗して後方に倒れ、第5図に見る様な状態になり、幌(4)及び覆(11)が完全に被せられて作業が完了する。

⁽¹⁷⁾ 46は筋交で、骨(5)が移動時に垂直状態を保ち、スムースな移動のために必要に応じて設けられるものである。尚実施例で鎖骨としたのは、その他ワイヤーやロープとして実施することも可能である。

上述の如く、この発明は、荷役の前後に運転席での操作で幌の伸張、折りたたみのみならず、幌後部の覆までも自動的に開閉でき、しかも折たたんだ幌及び後部の覆は荷台の前端に嵩低く納めることができ、クレーンやリフトトラックの荷役に支障がなく、その上運送事業の省力化に多大の貢献をしうる極めて便利なトラックの後部覆付幌の折たたみ開閉自動駆動装置を提供するものである。

4. 図面の簡単な説明

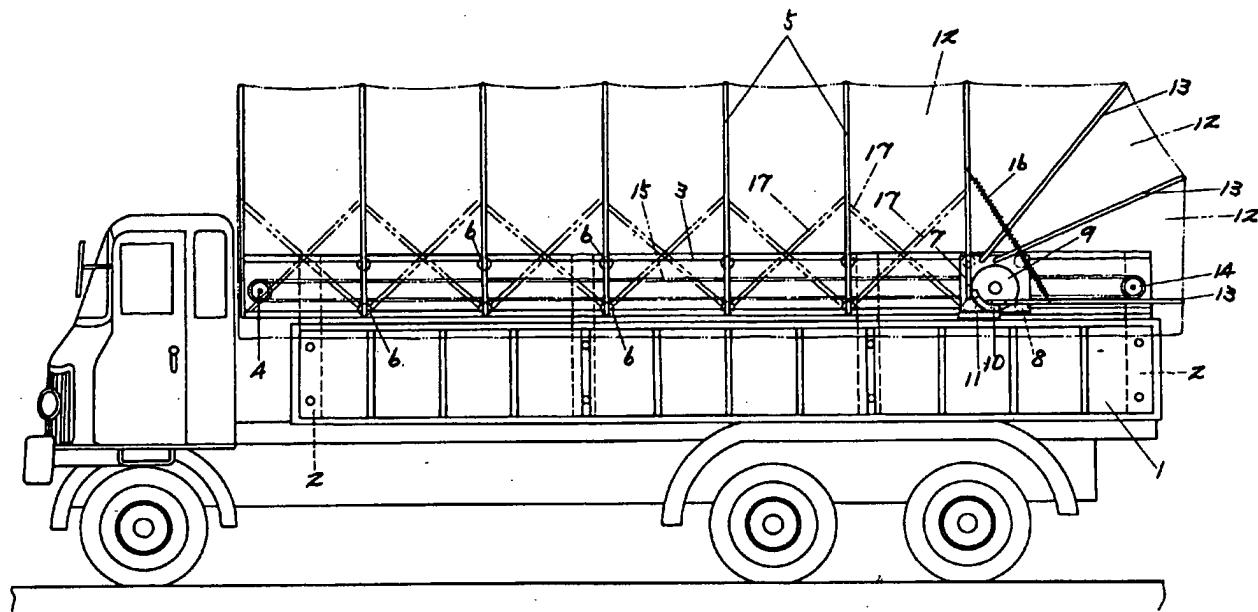
第1図は、幌及び覆が被せられた状態の説明図。

第2図は、幌及び覆が折りたたまれた状態の説明図。第3図は、第1図の状態を後面より見た説明図。第4図は、覆の最後端の骨が立つた状態を示す説明図。第5図は、覆の最後端の骨が倒れて覆が完全に被つた状態を示す説明図。第6図は、この発明の要部縦断面図。

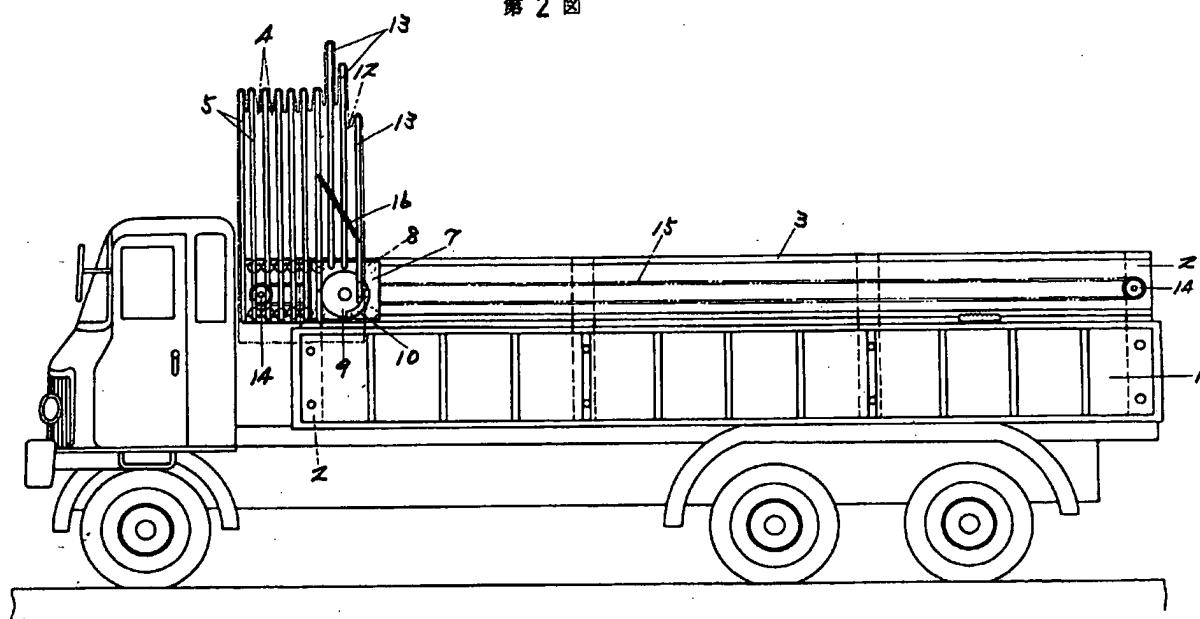
(11)…鎖骨 (4)…幌
(7)…移動基板 (9)…回転円盤
(11)…覆 (13)…覆の最後端の骨

代理人弁理士社本一義

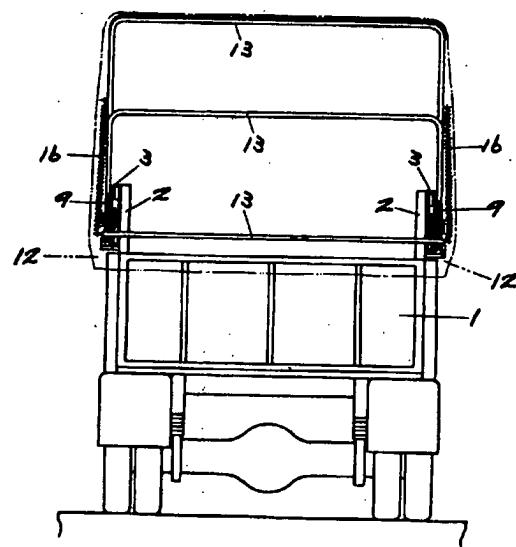
第 1 図



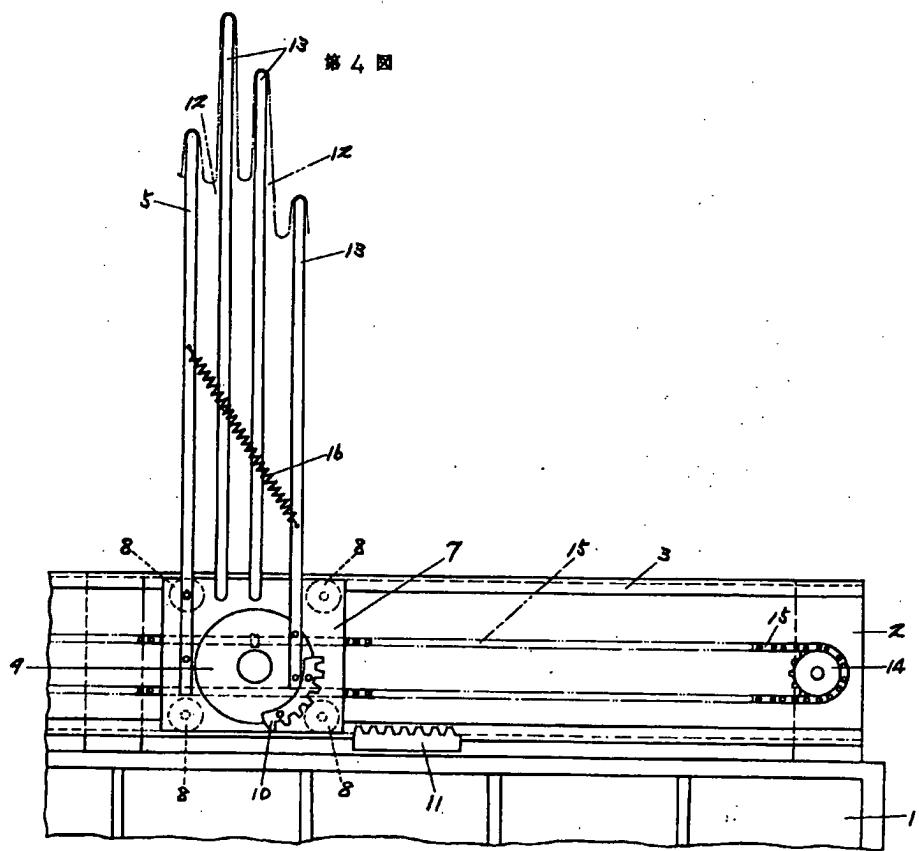
第 2 図



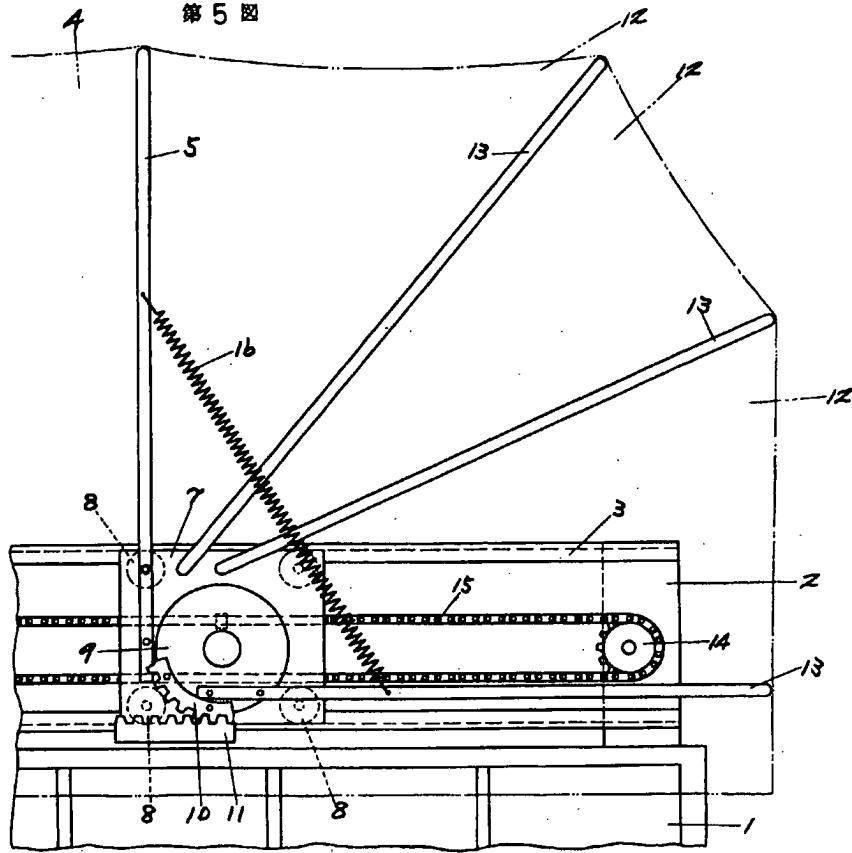
第3図



第4図



第5図



第6図

